

《学習のねらい》

- ・家庭生活における消費電力と二酸化炭素排出量を簡易計算して知る。
- ・千早赤阪村近隣でのエコ活動、省エネ（自然エネルギー活用）研究の様子を知り、自分たちができることについて考える。
- ・村にある水力発電実験施設／100年前に作られ保存されている水車の見学を通して、自然エネルギー活用について関心をもつ。

《学習の流れ》

実施時期 9月～10月

	学習活動の主な内容	指導のポイント
1	<b>【家電製品の消費電力調べ】</b> ・事前に、保護者の協力のもと家電製品の消費電力を調べるという宿題を出した。ドライヤーや机上の電気スタンドなど身近に使っているものを調べてきていた。その消費電力からどれだけ二酸化炭素が排出されているかなどについて講師の方に教えてもらおうと伝えた。	・身近な電化製品の消費電力調べを通して、環境問題に目を向ける。
2	<b>【地球温暖化の現状／自分たちに出来ること】</b> ・自然エネルギーを利用する会・千早赤阪の2名の方をゲストティーチャーとして招聘し、プレゼンテーションによる解説を受けた。 ・事前に調べてきた消費電力から二酸化炭素排出量を求め、自分たちが環境のために出来ることは何かを考えた。	・地域の省エネ事例に触れ、伝統的な水車や、NPO法人の水力発電活動についての理解を深める。 ・自分たちにも出来ることがあるということ意識させる。
3	<b>【校外学習】</b> ・水力発電実験施設（村内）の見学・実験 	・村内のエコ活動・省エネルギー（自然エネルギー活用）研究の様子を見学し、昔のことを知ると共に、環境保護への関心を高める。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

- ・「地球教室」基礎編（子どもeco検定 公式テキスト）
- ・自然エネルギーを利用する会・千早赤阪

《成果（児童・生徒の感想や反応 等）》

- ・身近な電化製品の消費電力を調べ、二酸化炭素の排出量を計算する活動を通して、「家の電化製品でこんなに二酸化炭素が出ているなんて驚いた。」「こまめに節電しようと思いました。」などと、自分たちの生活の仕方についても見直し、考え直すことができた。
- ・村にある水力発電実験施設の水車の見学では、「水の力でプロペラを回して電気が作れるなんて、すごいと思いました。」など、自然エネルギーの活用について驚き、関心を高めていた。